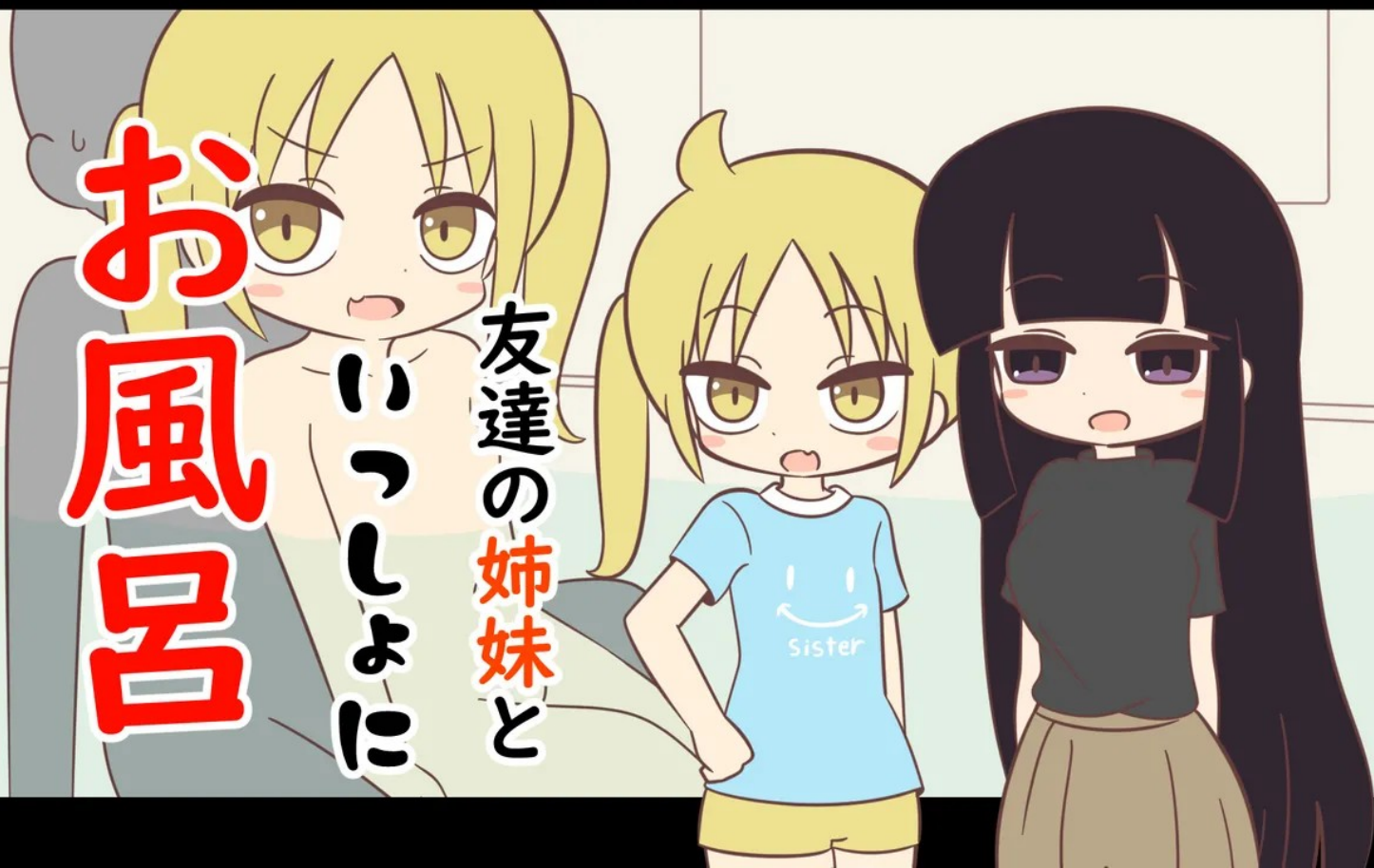


お風呂

友達と
姉妹と
いっしょに



友達の姉妹と
お風呂に入る話です

友達自体はほぼ
出てきません

本編54枚
合計91枚です



ぼくは
今日も親友の家に
遊びに来ていた

その親友(河井君)の
親もやさしく
連日遊びに行っても
嫌な顔せずに
歓迎してくれる

それと河井君には
姉と妹がいて
けっこうかわいい



あら…こんにちは
今日も来てたんだ
仲がいいわね！

…そうだ
居間に新しいおかしが
あったはず
取ってきてあげるね

あっ…お姉さん！
ありがとうございます



来てたんだー
あっ...!!
私もそのゲーム
やりたいやらせて!

ららよって...あ!?


なんでもない...

なに?



河井りん
1歳年下で
子供っぽく
人懐っこい

河井るり
3歳年上で
いつもやさしい
お姉さん



りんちゃんは
たまに下を履いてないことが
あって目のやり場に困る

距離感も
ちよっと近いし

前に少し
注意したことが
あったけど…

ズボン履かないか
だって？
家なんだしいだろー
……しょうがないな




ほらっ
ママの服着て来た

どうどう
似合うー？


まさかの
服ごと着替えてきた…
まあいいか……





似合うかって
聞いてるじゃん
ねえねえどうなの？

ああ…うん
似合ってる…あ!?
に…似合ってるよ




なんか
言い淀んでない？
気持ちこもってないぞ

ごめん…
そんなつもり
はないんだけど…

うっ…
胸元が
ゆるゆるだ


ということがあったので
もうなにも
言わないことにしている





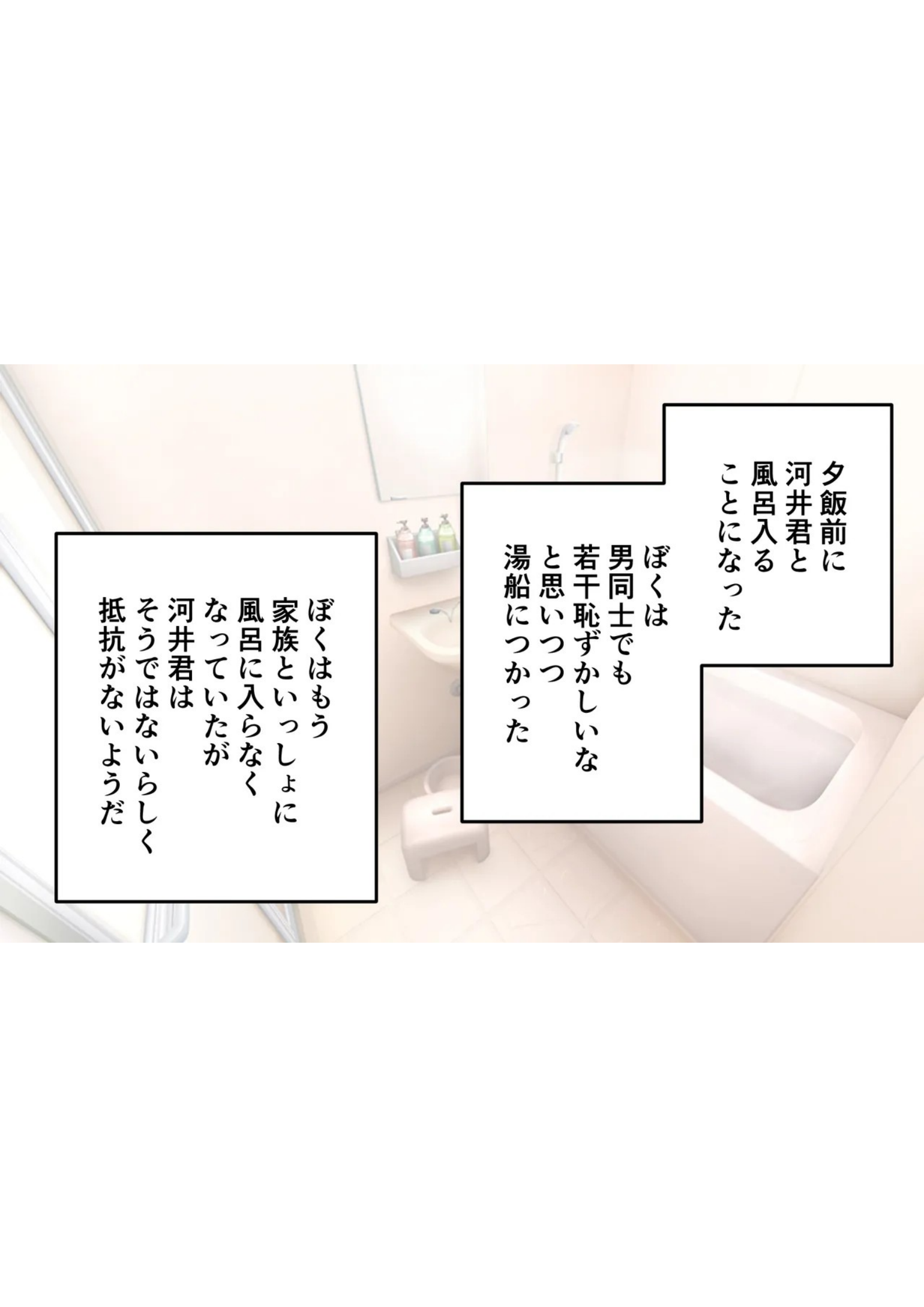
お姉さんの方は
ガードが固く
パンツが見れる
ことはない…

いや…なにを期待
しているんだ自分…
やめよう
友達の姉を
そういう目で
見るのは…



しかしこの後
パンツどころじゃ
ないものを
見ることになる

今日は河井家に
泊まらせてもらう
ことになっていた



夕飯前に
河井君と
風呂入る
ことになった

ぼくは
男同士でも
若干恥ずかしいな
と思いつつ
湯船につかった

ぼくはもう
家族といつしよに
風呂に入らなく
なっていたが
河井君は
そうではないらしく
抵抗がないようだ



…ん？
なにか外から
物音が聞こえる

お湯加減はどう〜

あっ…お姉さんだ
この状況で
話しかけられると
緊張するな

いつ…
いにくらぶですー！

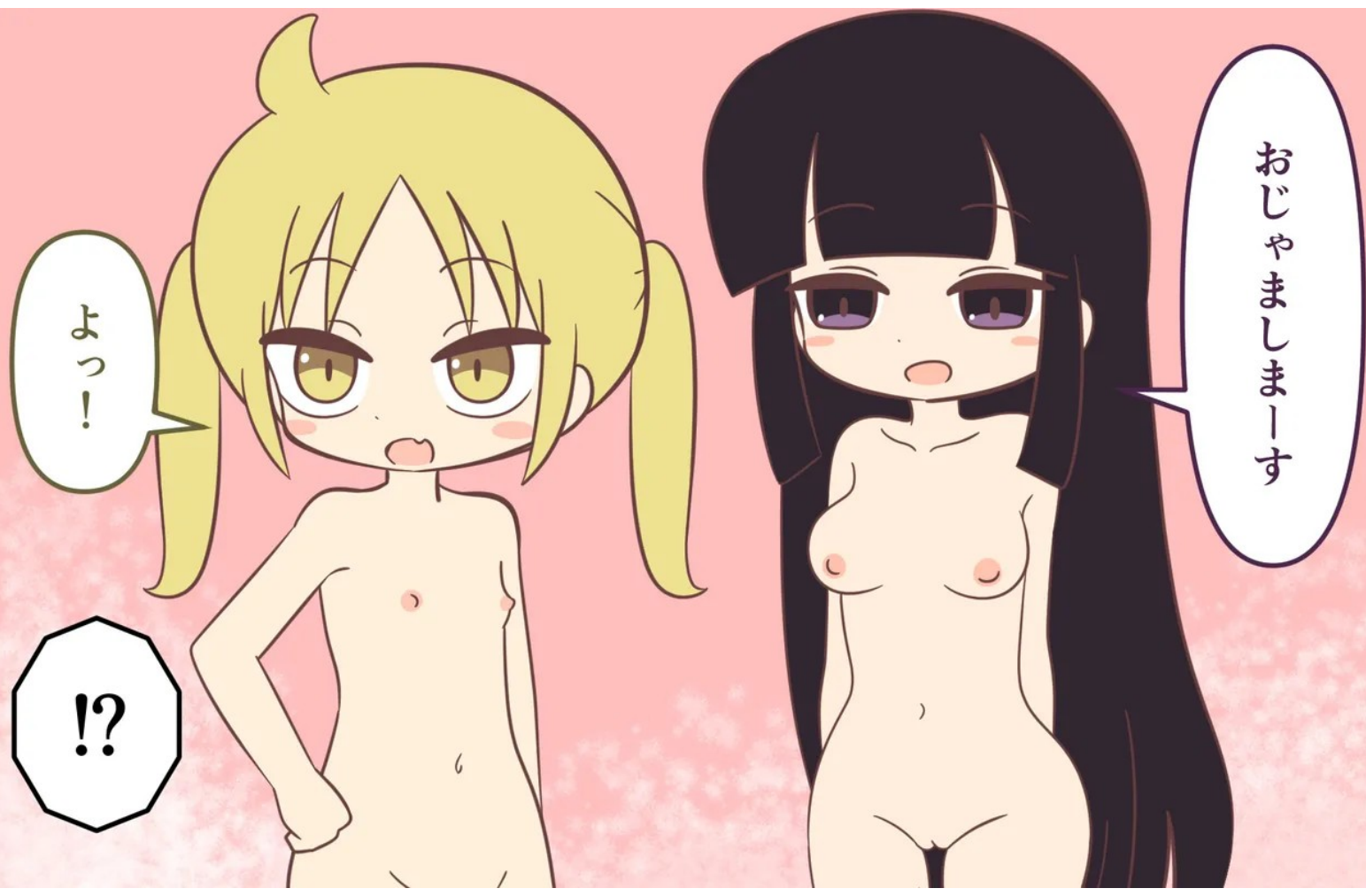


本当？
よかったー
じゃあ私たちも
入りましょう

え？

そういった後
風呂場のドアが
空いた

そこには
信じられない光景が
広がっていた！



よっ!


おじやましませーす

!?




あれ：
どうかした？

いいいいい：
いえなんでも
ない：です



なんてことだ
まるみえだ
女子の…初めて見た

ぼくのことを
子供扱いしてるから
恥ずかしくないの
だろうか……



さらにまずいことに
「なんだよ
4人は狭いだろ
と言が残し」
河井君が風呂を
出て行ってしまった

もう…ちゃんと
洗ったの？

兄ちゃんは
せっかちな

先にお姉ちゃん
頭洗うから

なんて状況だ…
どうしよう…
いや…もう出るか

あの…ぼく…

入るから
詰めるー



ようしょつと

えええ!?

ざば

なんだよ？

いや…
なあっ…
なんでもない

お尻が
当たってる…
りんちゃん
気にしなすぎ
だろ…

ん？

お尻になにか
硬いものが
当たってる？
なんだろうこれ

うっ!?

お尻さ...


流石に
勃起した
あれには
違和感を
持つようだ

なっ…なんでもない
ぼく上がるから

もう…
なんなんだよ

ざば

だめだよ
ちゃんとして
洗ってからじゃ
ないと♡



あっ！
お姉さん…
いや…えっと…

お姉さんの
視線がある一点に
注がれているのに
気づいて
ぼくは慌てて
股間を隠した

終わった…
流石に勃起の意味を
知らないなんてことは
ないだろうし



許されないだろう…
変態扱いされるか
痴漢扱いさるるか…



ねえ聞いてる？
ほらそこ座って


男の子は
すぐお風呂から出て
ちゃんと洗わない
だから……

え？

心—
恋愛小説

今日は特別
お姉さんが
洗ってあげるね

なにが起こって
いるんだ!?




うおっ…
お姉さんのあそこに
ぼくの手がっ！

まだ子ども扱いしてる？
もしかして
勃起しているのに
まだ気づいてないのか…

今度は背中ね
ほら...ごしごし♡





背中に柔らかい
感触が…

そんなに
押さえつけられたら
うっ…!!!

びゅー
びゅー

限界が来て
射精して
しまった…

わあ…
いっぱい
出たね♡

ほそっ…



背中越し
だったので
射精したことに
気づかれずに
すんだみたいだ…
助かった…

お姉ちゃん
私も洗って〜

りんちゃんにも
見られてなかった
みたいだ…

どうしよっかな…
お姉ちゃんは
もう疲れちゃった



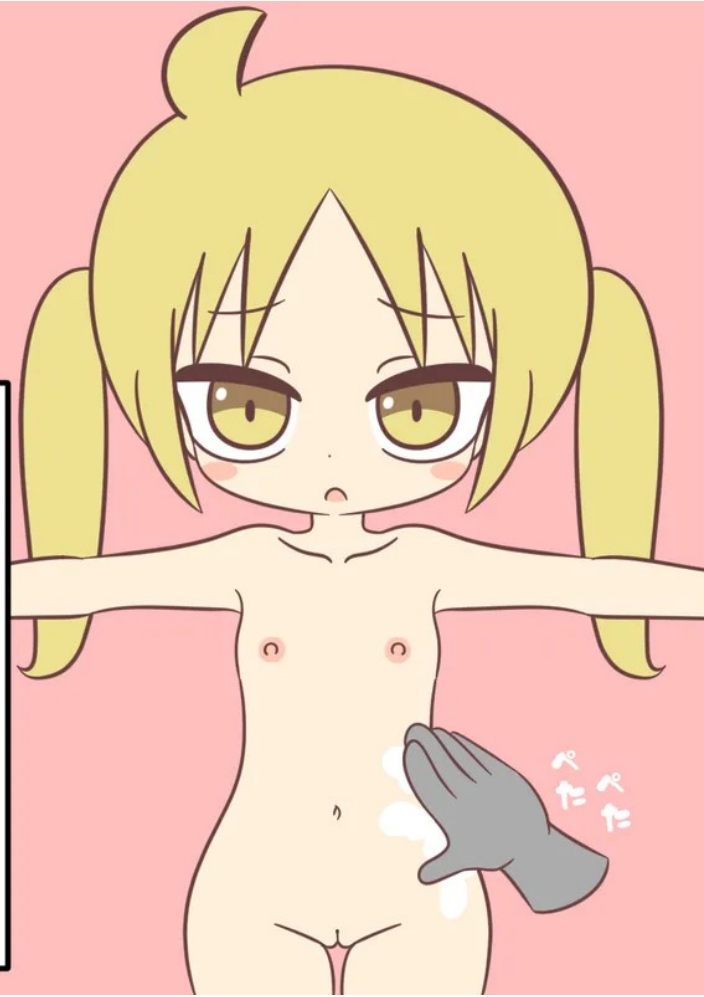
しょうがないなー
じゃあ代わりに
お前が
洗ってくれ

えっ!?!
ぼくう?

お前しか
いないだろー

ぽっ!

今度は
洗うことになる
なんて…
こんな正面から…



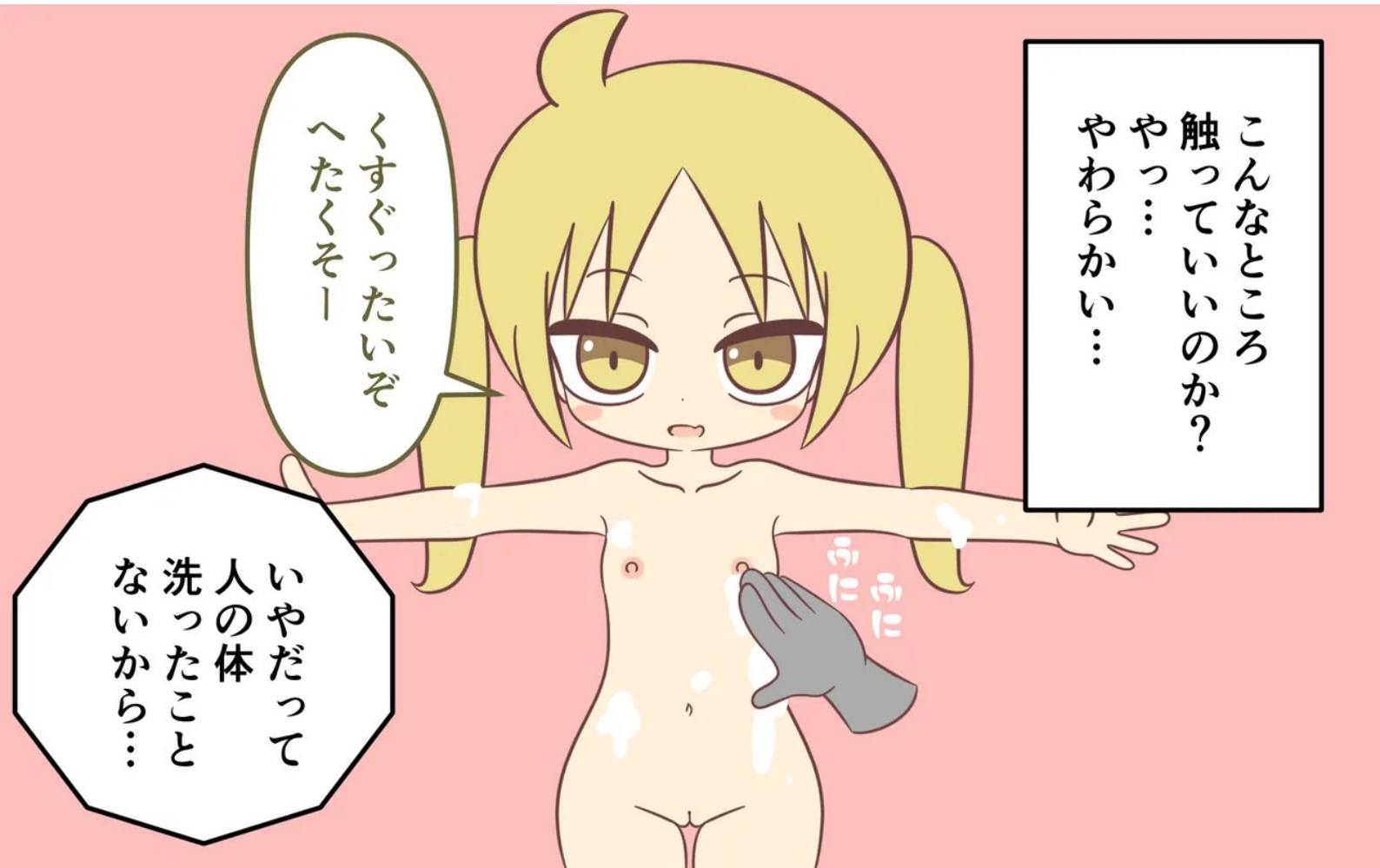
今さっき出たから
大丈夫だろうけど
勃起しないように
気を付けないと

こんなところ
触っていいのか？
やっ…
やわらかい…

くすぐったいぞ
へたくそー

いやだって
人の体
洗ったこと
ないから…

らにらに

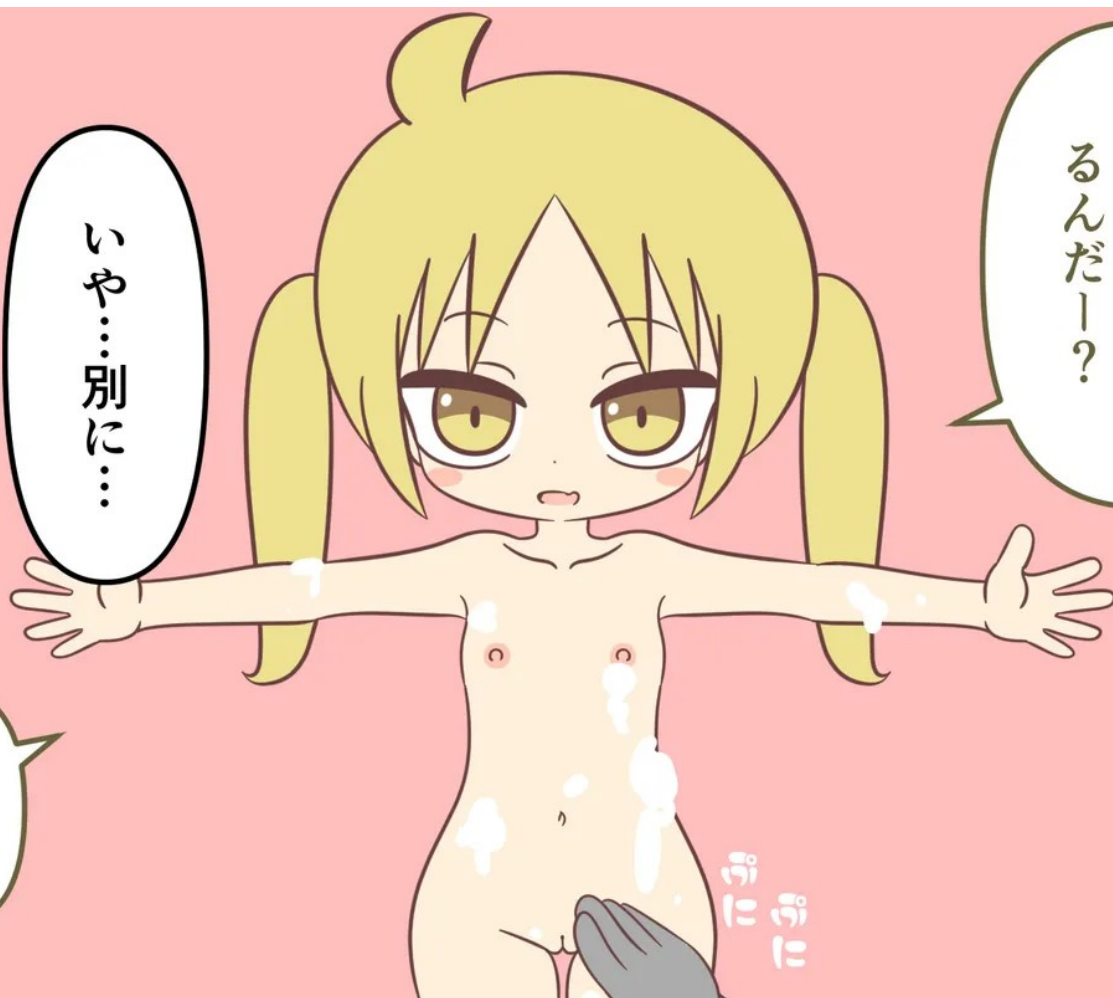


なに
目つぶって
るんだー？

いや…別に…

ん？

ぽん
ぽん






うわっ!
お前どうしたんだ
そのちんちん
腫れてるぞ

えっ!?
いや…
これは…
えっと…

さっき出たのに
また勃起して
してしまった



あれれー
ほんとだー
腫れてるねー
大丈夫？

でも大丈夫
さすって
あげれば
治るから

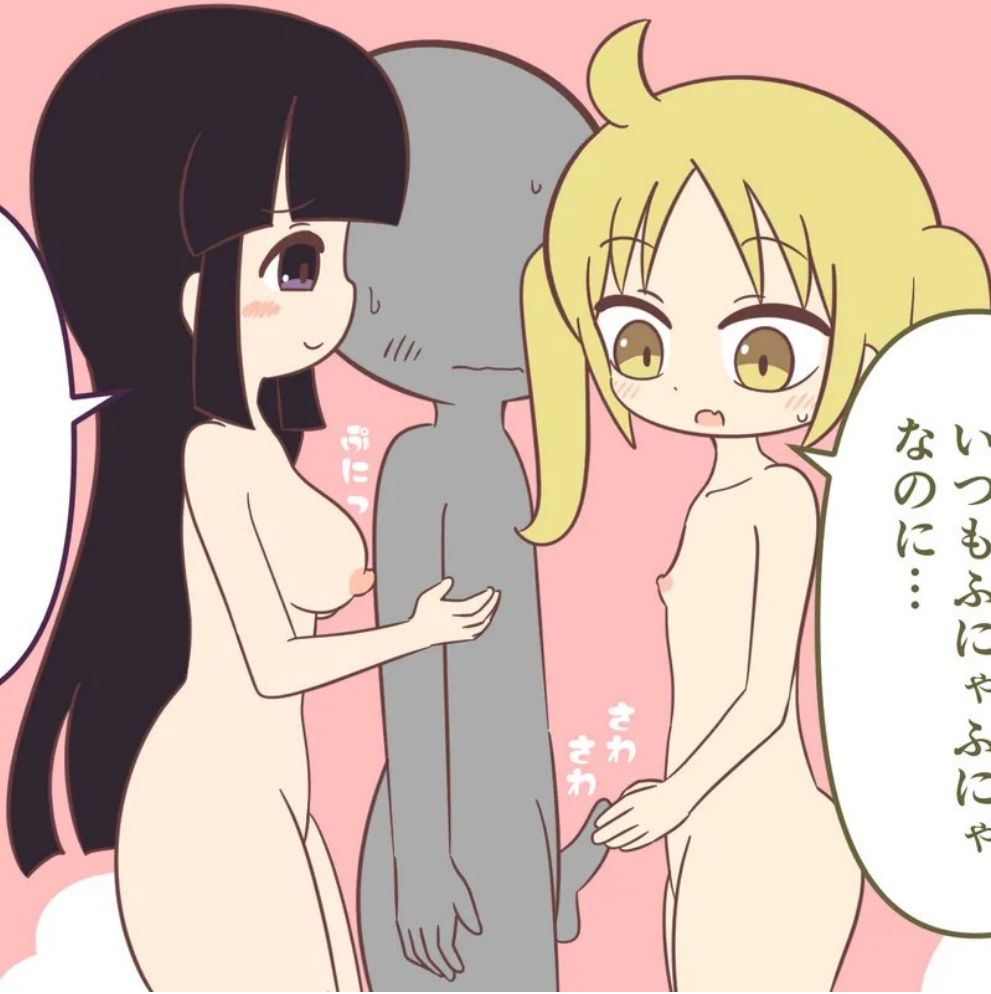
ガバ

カチカチに
なってる

兄ちゃんのは
いつもふにゃふにゃ
なのに…

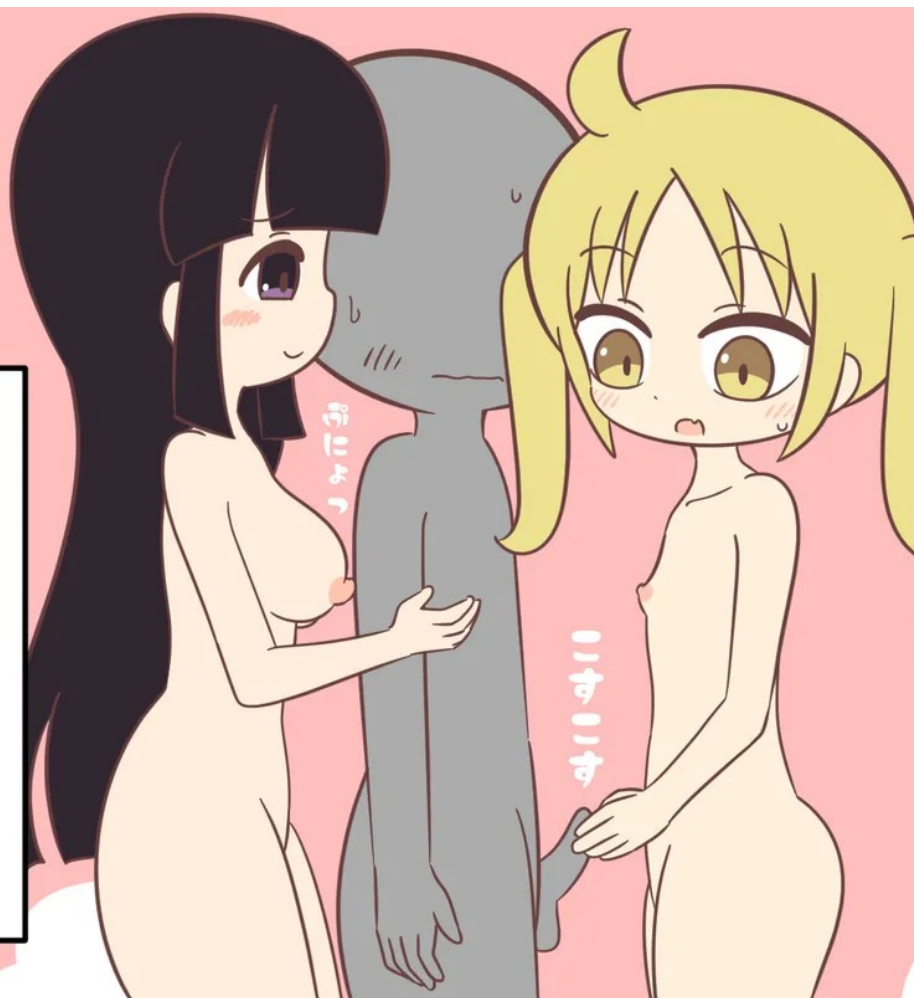
さわ
さわ

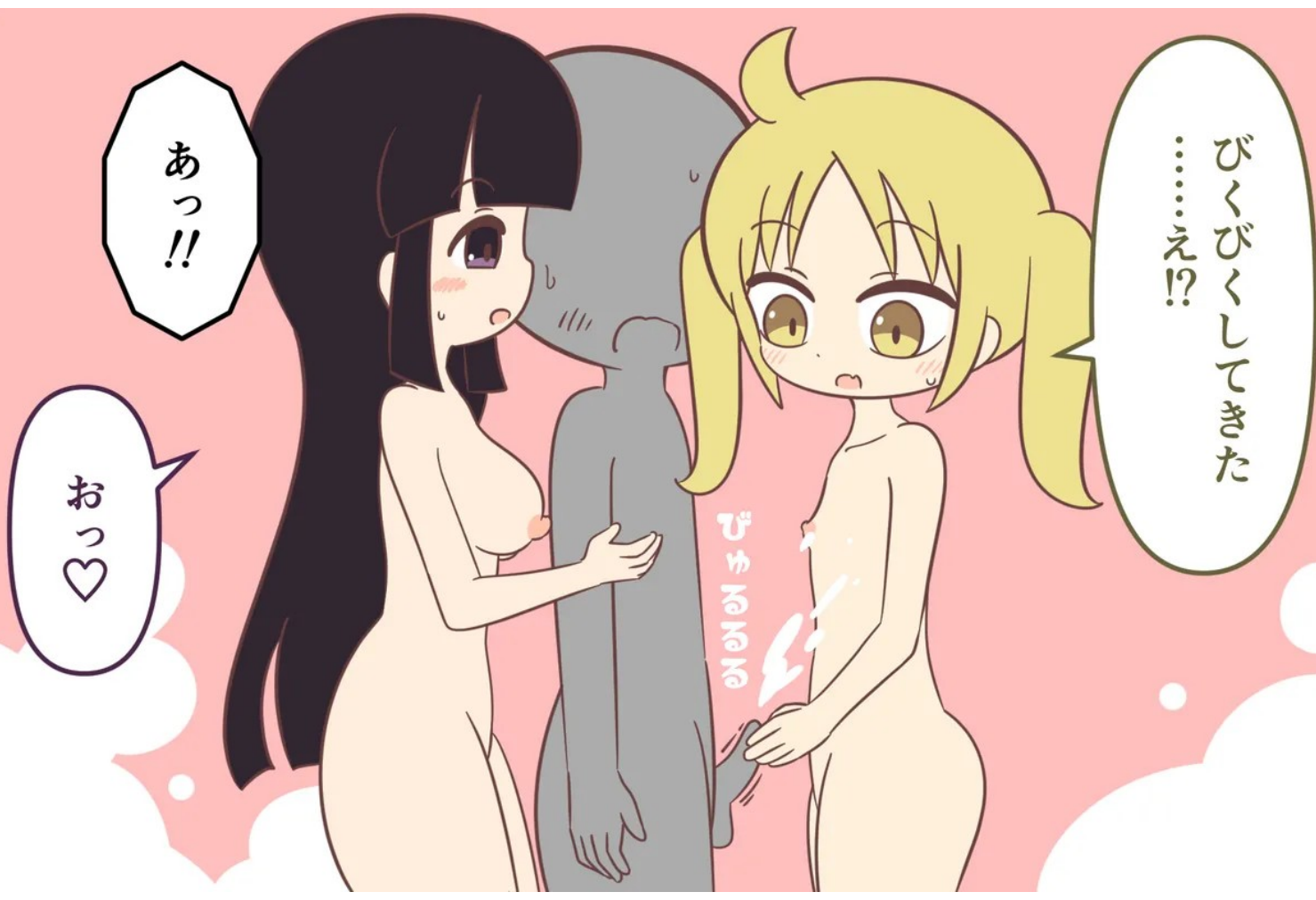
お姉さんが
支えておいて
あげる



なんだこの状況は…
柔らかい手で
ちんちん触られて

背中にもまた
やわらかいものが
当たってる






あっ!!

おっ♡


びくびくしてきた
……え!?

ぐわんぐわん




なにこれ
汚っ…
それになんか
イカ臭い…

どうしよう…
友達の妹に
ぶっかけて
しまった



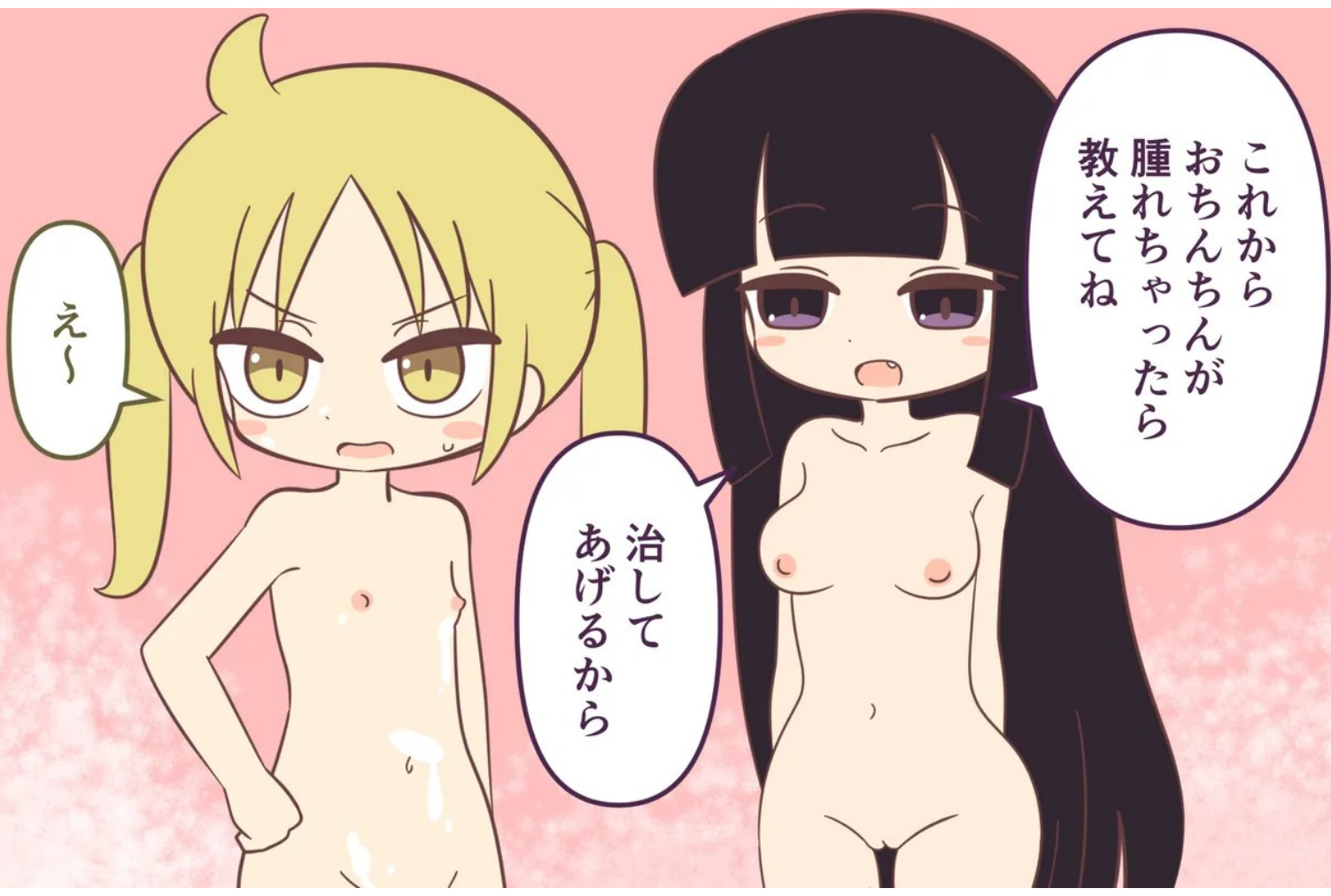
あれ
白いおしっこ
ぴゅっぴゅしたら
おちんちんの腫れ
治まったみたい

2回目なのに
いっぱい
出たね♡



本当だ…
腫れが引いてるじゃん


よかったな
私はねばねばして
気持ち悪いし
よくないけど



これから
おちんちんが
腫れちゃったら
教えてね

治して
あげるから

ええ



こうしてこれから
勃起したときは
河井姉妹が
しこしこして
くれるようになった

半年後…

あのさ…
学校で習ったんだけど

この白いおしっこ
濃みみたいなもので
だから出したら
腫れが収まるんだと
思ってたけど…





本当は
赤ちゃんの元らしいぞ

えっ……………
そうなんだ…

今まで
気づいて
なかったのか…



へーそうだったんだ
じゃあきみ
とんでもない
スケベ君だったんだね♡

お姉さん…
相変わらずの
しらじらしさだ…



ついにばれてしまったが
お姉さんがりんちゃんを
説得したのか

この関係が
終わることはなかった

おわり















